

人口減少社会における“自治力”の低下

指導教員 北陸大学 経済経営学部 教授 田尻慎太郎
 参加学生 阿彦拓夢・畝田慎也・清水大世・正村泰生・森田彩人・六郷知稀・芳田涼輔・岡本隼
 中川秀人・河端克実・本多遥大・堂川大貴・中村彪崇・森永海人

1. 活動の成果要約

- ・ フィールドツアー、インタビューによる加賀地域の強み弱みの発見
- ・ 温泉図書館みかんでのインターンシップ
- ・ 加賀市で活動する団体への公益財団法人あくるめによるヒアリング結果を書き起こし
- ・ 専門家を招聘したオンラインセミナーの開催
- ・ 子育てに関わる実践者を集めたハイブリッドイベントの開催
- ・ 大学外とのメールを用いたコミュニケーションスキルの獲得
- ・ SNS を活用した広報宣伝
- ・ 加賀市内町字単位の人口分析

2. 活動の目的

加賀市では昭和60年をピークに人口が減少しており、税収も減収する中、人材や資金を自治体に依存しない活動の重要性が高まっている。本活動では、地域の人材育成・資金循環を目指して設立された公益財団法人あくるめと連携し、財団事業を発展させることを通じたまちづくりを目的としている。そのためには、まず地域の活動に参加する人々を増やしていくことが必要になる。そこで今年度は、加賀市で何かを始めたい、仲間を増やしたい、自分たちが思い描く理想の町づくりをしたいという想いを持つ人々を対象にしたオンラインセミナーやハイブリッドイベントを開催することで、市内における潜在的な担い手育成に取り組むことを目的とした。

3. 活動の内容

6月10日	ゼミ内で公益財団法人あくるめによる遠隔講義	
7月11日	加賀かがやき塾ぶち運動会に参加	
7月10日 7月15日 8月25日	加賀市内フィールドワーク、タビト學舎訪問	
8月23日 ～9月3日	温泉図書館みかんで1日館長業務インターン	

9月19日 ～9月27日	加賀市で活動する団体のインタビューを使い書き起こし	
10月14日	宇都宮大学石井大一郎准教授を講師とした第4回オンライン講座「フレキシブルシンキング in 加賀」をFacebook Liveで開催	
11月～12月	<p>あくるめ財団の助成対象にヒアリング</p> <p>「ももたろうプロジェクト」九州大学大学院人間環境学府空間システム専攻修士1年石本大歩さん</p> <p>「萬松園再生プロジェクト」東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市デザイン研究室修士2年鈴木直輝さん</p> <p>「かが子ども未来プロジェクト」ルロワ東出康江氏</p>	
12月	加賀市役所政策戦略部スマートシティ課企画調整グループ池田優貴氏に「スーパーシティ構想」についてヒアリング	
1月22日	認定NPO法人こまちプラス代表森祐美子氏をオンライン講師に招き、第5回「フレキシブルシンキング in 加賀」を石川県九谷焼美術館ホールを会場として片山津児童センター、加賀市育児サークル連絡協議会ぴよぴよ・かがをゲスト団体にハイブリッドイベントを開催	

4. 活動の成果

・フレキシブルシンキング in 加賀のオンラインセミナーの統計

	テーマ	リーチ数 (うち動画)	投稿クリック数	リアクション数	動画再生回数
第4回	まちで活動する人の拡がりを生み出すコミュニティの作り方	2,612 (312)	53	32	210
第5回	子育てもまちもプラスに！	2,542 (330)	55	48	215

※第5回はリアルとオンラインのハイブリッド開催であり、機器セッティングなど経験を積むことができた。会場来場者数は19名。

<貢献事項>

- ・ 加賀にいても児童センターでの活動のすべてを知らないので、素晴らしい活動をされていて、加賀市ってすごいなということが実感できた。「ボランティアは参加する1つの方法である」ということにはすごく納得。ボランティアは貢献するだけでなく、得られることがありますから。(第5回フレキシブルシンキング in 加賀 参加者からのコメント)
- ・ こうした大きな会で自分達の活動をまとめて発表する機会をいただいたことは、自分達にとっても非常に良い振り返りの機会になった。PowerPoint の作成もあくるめ財団の支援のおかげで完成することができました。(第5回フレキシブルシンキング in 加賀 参加者からのコメント)

5. 次年度以降の計画

取り組みも3年目となる来年度はコロナ禍の影響も減少することを想定して、いよいよ加賀市の現地での定期的な活動に力を入れたい。具体的には温泉図書館みかんをフィールドとして、あくるめ財団と連携しつつ図書館の運営、イベントの開催、来場者調査などに加わっていく。それにより加賀市で活躍する人材育成、増加をより推進していく。また、あくるめ財団が休眠預金事業の実行団体に選定されたことを受け、今年度できなかった子育て、女性活躍、若者の未来意識等についての加賀市民調査（アンケート、インタビュー、フィールドワーク、分権調査）を実施し、報告書を作成し発表する。

6. 活動に対する地域からの評価

昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で気にしながらの活動でしたが、ゼミ生は様子をみながら様々な活動に柔軟にチャレンジしてくれました。当団体が実施する交流事業イベントへの参加、関係施設のスタッフ体験、フィールドワーク、現地とオンラインのハイブリッド型のイベント開催など、地元の人たちとの交流から生まれる学び合いも多かったように思います。またインタビューの文字起こしやオンラインイベントの企画など、非対面の活動も精力的に取り組んでいただきました。コロナ時代だからこそ、オンライン/オフラインを器用に使い分け、社会の状況にあわせしなやかに進める工夫ある学びは、私たちにとっても大変勉強になりました。今年も一緒に活動を行えて心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。(公益財団法人あくるめ 事務局 山田真名美)